

都難言協会報

東京都公立学校難聴・言語障害教育研究協議会

児童の成長を喜び合える 環境づくりを目指して

東京都公立学校難聴・言語障害教育研究協議会
会長 本橋 忠旗 (杉並区立高井戸第四小学校校長)



新型コロナウイルス感染症への対策も一段落つき、通常の学校生活が戻りつつあります。これからは、これまで制約を受けてきた教育活動を取り戻しながら、ICT機器の活用等、より効果的な指導方法の実践が試される時期でもあります。

さて、随分と前になりますが、まだ私が学級担任をしていた時分、通級の先生と保護者、担任で共有する連絡ファイルを見るのが楽しみでした。そこには学級では見られない児童の頑張りや保護者の思いが綴られ、在籍級の担任としての関わりを考えるとても貴重な機会でした。時は流れましたが、三者がそれぞれの立場で子供の健やかな成長を願い、十分なコミュニケーションをとりながらチームとして子供を育てていく仕組みは変わりません。

その鍵となるのは「確かな児童理解と適切な指導計画の作成・実践」にあります。そのためには児童の課題を的確に分析したり、適切な指導方法を選択できたりする「通級の先生力」、在籍級で支援方法を見出せる「担任の先生力」、多様性を理解できる「大人の人間力」を高めていくことが重要です。そして、私たち都難言の組織が果たす役割・責任は大きなものがあります。

先生方の日々の地道な努力をまとめ、価値付け、自信をもって周囲に発信できる活動となるよう、引き続き研究活動へのご協力をお願いします。

また最後になりますが、東京都教育委員会ははじめ、関係の皆様には、これまで同様、本会の研究活動にご支援いただけますようお願い申し上げます。

❖ 新設学級紹介 ❖

大島町立つつじ小学校

島内で1校目になる難聴通級指導学級が新設されました。教室名は、「おおぞら」です。つつじ小学校に在籍する児童とご家族からいただいた名前で、「大空に羽ばたくように。教室に通うみんなが伸び伸びと楽しく過ごせるように。」という願いが込められています。子供一人一人がもっている個性を大切に伸ばしていける教室を目指して、日々の指導に励んでいきます。 大島町立つつじ小学校 おおぞら教室 高嶋 智恵



清瀬市立清瀬第六小学校

今年度から新たに清瀬市にことばの教室が開設されました。昨年度までは、近隣の東久留米市立第六小学校ことばときこえの教室に通っていた児童も、市内に設置されたことで送迎時間が短縮され、指導時間もより確保しやすくなりました。今後も、児童や保護者の方々が「ここに来てよかった」と思えるような指導を進めていけるよう努力していきます。

清瀬市立清瀬第六小学校
ことばの教室 高遠 敬子



- ◆ 主な内容 ◆
- 一面 会長あいさつ 新設学級の紹介
- 二面 講演会
- 三面 第一回専門研究会 卒業生・保護者の声
- 四面 専門委員会より 研究会案内他

都難言協
ホームページは
こちらから



<https://www.tonangen.com/>

講演会

保護者の気持ちの理解と支援

子どもの発達支援を考えるSTの会 代表 中川信子 先生

1 自己紹介をかねて

自閉症のお子さんに話を通じにくいのはどうしてだろう、と思っていた頃、ある言語聴覚士（ST）の先生との出会いがあり、それをきっかけにSTの世界に入った。子どもの支援は、速攻・即効の答はないのだ、とつくづく感じる。その子の得意不得意などを知り、それを基に方策を立て、試行錯誤していき、だんだん分かっていくようになる。それが臨床というものだと思う。STは、医療職に属するため、エビデンスにこだわりがちで、こういう柔軟な対応が苦手な人が多いのが現実。

旭出学園の三木先生は、学園に就職を希望する人に、「子どもと遊べるかい？」と聞いていた。子どもを遊ばせる、ではなく、子ども【と】遊ぶことが大切。「分らないことがあるれば、子どもを見てもらえらん。子どもが全部教えてくれる」と説いておられた。「子どもを見る」と言っても、曇った眼鏡をかけているとよくは見えないし、実施した検査結果の数値を当てはめて見てしまうと、子どもの真の姿がよく見えなくなってしまうことがある。正しく見るための適切な目、それが専門的な知識というものである。

「ことば・きこえの教室」は、保護者の願いをルートとして始まったものであり、もとは保護者

との協力関係が強かったと思うが、今は支援側と保護者との関係性がなかなか深まらないと思う。ドライな保護者が増えてきているのかもしれない。

2 「ことば・きこえの教室」に通う保護者の気持ち

「ことば・きこえの教室」の先生方には、その子のそれまでの成育歴を知り、本人や家族の背景を知ることが大切にしてほしい。「ことば・きこえの教室」に我が子を通わせる保護者は、「どうしてうちの子が『こんな所』に通わなければならないのだろう」など、内心複雑な気持ちをもっておられることがある。保護者はその子の育ちについて教えてもらおう姿勢を大切にし、その子が学校を卒業した後も幸せであるよう、長期的な展望をもって、今育てたい力を育てることが必要である。

3 「ことば・きこえの教室」にできること

「ことば・きこえの教室」は、子どもにとって居場所としての心のよりどころになってほしい。上野一彦先生は通級を「オアシスからカタパルト（艦船からの航空機発進装置）へ」と言われた。オアシスのような温かな場所で守られて自信をつけた子どもが、そこから飛び立っていきけるような存在に、ということ。望ましい支援場所としての



通級の在り方を表現したものである。個別支援を通じて集団参加を助けるといった視点が、支援者には求められる。

「安心できる場所」の

ためには、子どもの出迎え方や子どもとの話し方について意識することが大切である。指導の準備を整えて笑顔で出迎える。そして、子どもの話を急かしたり遮ったり、話に評価を加えたりせず、うなずきながらよく聞いてほしい。「ことば・きこえの教室」の先生には、スペシャリスト、ジェネラリストであることに加え、人と人をつなぐ人として保護者を支える役割や環境調整などを大切にしてほしい。専門性は必要だが、「訓練士」にはならないでほしい。

4 保護者の気持ちの理解と支援

保護者の気持ちを理解するため、いったん教員という立場を離れて「ことば・きこえの教室」の仕事で対人援助職として捉えてみる機会をもつてほしい。子どもの育ちはエビデンスで測れるものではない。先生が一生懸命になりすぎると保護者を追い詰める。そのままでもよい、という温かさを前面に出すことで、変えられるものもある。子どもをまん中に保護者と先生が三人四脚で進んでいくことで、保護者に希望が生まれる。「ことば・きこえの教室」の仕事は、今日明日にすぐに役に立つものではないかもしれないが、保護者と子どもにとってのよりどころとしての教室を楽しく、効果あるものにしてほしい。

文責 鈴木りえ子

第1回
専門
研究会

ワーキングメモリの特性をふまえた 児童・生徒の学習支援

広島大学大学院人間社会学研究科 湯澤 正通 先生



一 ワーキングメモリとは

ワーキングメモリとは、短い時間に心の中で情報を保持(記憶)し、同時に処理する(考える)能力のことです。「脳の黒板」と言えます。また、「ワーキングメモリは知識を学習し、脳の長期記憶へ蓄える入り口です。「脳の黒板」の容量や「脳の入り口」の大きさは個人によって違います。個人の容量や入り口の大きさに合わせて情報が入りやすいように手助けすることが特別支援の役割です。

二 ワーキングメモリの アセスメント

ワーキングメモリについては、「言語的短期記憶」「言語性ワーキングメモリ」「視空間的短期記憶」「視空間性ワーキングメモリ」の四つの側面から測定することができます。ワーキングメモリは個人差が大きく、この弱さは学習への影響が大きいため、予防的な介入や支援が有効です。

三 ワーキングメモリ理論 に基づいた学習支援

学習の遅れの原因は、学習の参加における躓きと学習そのものの躓きとに分けることができます。学習の参加に躓いている場合は、参加しやすいような環境の整備が必要です。学習そのものに躓いている場合は、「情報の整理(情報の構造化・多重符号化)」「情報の最適化(スモールステップ・情報の統合・時間のコントロール)」。

「記憶のサポート(記憶方略の活用・長期記憶の活用・補助教材の利用)」「注意のコントロール(選択的注意・自己制御)」の四つの視点からワーキングメモリの働きを支援していきます。大切なことは一人一人の背景を考え、対応や支援を考えていくことです。

四 読みの発達と支援

読みの発達の基盤は、幼児期からの大人とのコミュニケーションを通して語彙の獲得です。その中で徐々に言葉を意識的に考え、その共通性に気づいたり(音韻認識の発達)、音と文字が対応することに気づいたりして、文字を一文字ずつ読めるようになります。さらに、文字から言葉、言葉から文章へと発展していきます。文章へと発展しているかを見極め、それに応じた支援をしていくことが大切です。

文責 伊勢紗希子

卒業生・保護者の声 (小学校)

〈卒業生の声〉

僕は、6年間ずっとことばの教室に通ってました。通い始めは「か」が「た」になっていました。だけど、6年間通ったおかげで、今では「か」と「た」の区別がつくようになってきました。そのおかげで友達と話すときにあまり聞き返されなくなり、少し友達と話すのが楽しくなりました。6年間、ことばの教室に通えて良かったです。

構音

〈保護者の声〉

1年生から6年生まで6年間お世話になりました。一対一で子どもと楽しく会話をしながら指導していただき、できたことを認めてもらい、子どもも毎回楽しみに通うことができました。また、学校生活や勉強の困りごとなど幅広く相談にのっていただき、大変感謝しています。

〈卒業生の声〉

5年間ことばの教室に通い続けられた事は、先生と話せるからだと思います。大人とじっくり話せる場は家庭しかないのでも、貴重な経験だったと思います。他の学年との交流などで違う人の意見も聞けてよかったです。5年間ありがとうございました。

吃音

〈保護者の声〉

ことばの教室には2年生の時からお世話になりました。吃音の勉強や想定問答などの指導をして頂きました。何よりも良かったのが、話を聞いてもらえる事だったと思います。リラックスして自分の好きな事の話をしていました。先生のおかげで、話すことへの自信になり、中学生活での積極性につながっています。ありがとうございました。

専 門 委 員 会

■研究推進委員会

難言教育に携わる教員の専門知識や指導技術の向上を目指し、「専門研究会」「ブロック研究発表会」「課題別研究会」「事例研究会」「基礎研究会」を企画しています。児童・生徒のために、充実した研修・研究が行えるよう努めます。

■調査・対策委員会

指導をより充実させるために、学級の実態を把握し、その時に生じた課題の解決に向けて活動していきます。

- ・基本調査の集計、結果の報告
- ・都・区市町村教委への「提案書」作成
- ・都教委との意見交換会
- ・関係団体との合同研究会記録等

■広報委員会

会員の皆様に役立つ、様々な情報を発信していきます。

- ・会報（年二回） ・紀要
 - ・継走電話連絡網 ・設置校一覧
- それぞれについてお気付きのことがありましたら、お知らせください。

また、ホームページに掲載したい事柄の相談も、お受けしています。

大会・学会・研究会などのお知らせ

*最新の情報はHP等でご確認ください。

第52回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会／第55回全国情緒障害教育研究協議会全国大会

埼玉大会

【日程】 令和5年7月27日（木）・28日（金）

【問い合わせ先】 事務局・川口市立東本郷小学校

〒334-0063 埼玉県川口市東本郷630

Tel:048-283-8883 Fax:048-284-8749

E-mail:irodori.saita2023@gmail.com



第56回日本言語障害児教育研究大会

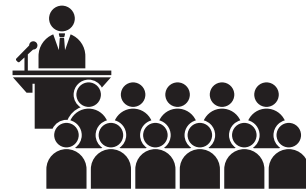
【日程】 令和5年8月7日（月）・8日（火）

【問い合わせ先】 Fax:047-400-6337

日本版KABC-Ⅱベーシック講習会

【日程】 令和5年10月7日（土）・8日（日）

【問い合わせ先】 E-mail:honbu-koushu@k-abc.jp



事務局より

今年度の事務局は、城西ブロックとホームページ運用のために多摩北ブロックと多摩東ブロックから一名ずつ、多摩西ブロックから三名で担当します。

今年度は、令和七年度全難言協東京大会に向けて、準備研究会を継続して開催します。通級指導学級がより発展するように、会員の皆様と協力しつつ、円滑な運営に努めてまいります。どうぞよろしくお願いたします。

―編集後記―

ご多忙の中、本会報作成にご協力頂きました皆様に心より感謝申し上げます。

本会報を通し、難言教育に関わる皆様との情報共有と、日々の通級指導の充実にお役立てて頂けたら幸いです。

都難言協会報

代表者（会長） 本橋 忠旗
 責任者（広報委員長） 浅野 努
 発行日 令和五年七月三日
 発行数 五九〇〇部
 印刷 有限会社 正陽印刷

